

南米の温泉

九州大学温泉治療学研究所内科 矢野良一

Spas in South America

Ryoichi YANO

(Institute of Balneotherapeutics, Kyushu University)

I はじめに

第11回国際リウマチ学会が1965年12月、1週間にわたって南米アルゼンチンのマル・デル・プラタで開かれるので出題した機会に、どこか有名な温泉があれば訪ねてみようと考えた。書籍、雑誌で調べたがまったくわからない。欧米の温泉については既報した^{1,2)}。

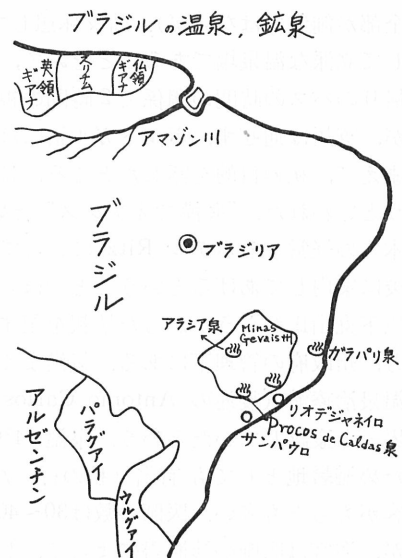
南米の温泉を訪ねたかたは、4年前にブラジルの温泉に行かれた藤巻時男助教授以外にはないように思う。1963年7月秋田県湯瀬温泉で開かれた本会の第16回大会で藤巻はブラジルのアマゾン川流域およびブラジルの東北部における若干の鉱泉について一般演題³⁾のなかで話された。

II 南米の温泉および鉱泉

初めに藤巻の抄録を記す。「南米一般に飲料水の不適当なところが多く、鉱泉が広く飲用に供せられていて、種類も多い。1962年9月から3カ月間の南米旅行中に分析表を入手しえたブラジルのびん詰め鉱泉9種について報告する。いずれも天然鉱泉をびん詰にしてあり、人工的にCO₂を加えたものと加えないものが市販され、後者を「病人用」と称しているものもある。pHは6.0~9.8、蒸発残渣は44~344ppmというきわめて少量である（日本では500ppm以下の温鉱泉はわずかに12%余の133泉にすぎない）。放射能もきわめて少ない……」と。

本格的とまでゆかないにせよ、医療用に供されている温鉱泉はほとんどないとお話であったように記憶する。

したがって南米の温泉調査には期待がもてないと思ったが、私の南米行きをかぎつけて、旅程のあっせんを申し出てみえたH社に一応温泉の有無をできるだけ調べてくれるように依頼した。その結果図1にみるようにブラジルの南部 Minas Gerais 州（リオデジャネイロやサンパウロの北部の大きな州である）に温鉱泉で医療に利用されているものがあることがわかった。8カ所の“Summer resorts and he-



第1図 ブラジルの温泉, 鉱泉

alth spas”をあげてくれたが、タイプライターで打ってそれぞれ3～17行程の紹介にとどまり、読んでみて温泉3、鉱泉3、避暑地2ということを知りえた。さて温泉を探すのにいかに苦労したか、皆さんにしばらくの間聞いて頂きたい。すなわち問題は交通の便である。ブラジルは日本の25倍の広さであり、サンパウロに近いところに温泉があるということだけでは、宿泊の予定がたたない。とにかく1カ所の温泉しか訪ねられないし、ホテルの所在も不明であるから、サンパウロに着いて在留邦人にきくほかに、方法はないと考えた。ともかくも温泉の所在を調べてくれたH会社に感謝して、あとは私自らの手でなんとか目的をはたす努力をしなければならぬ。

国際リウマチ学会にはわれら日本人同行者十数名を数え、多くは演題を発表し、親日的な南米の一角で一応の気焰をあげ、「次回の4年後の国際学会は東京ではどうか？」とさえ、委員会で動議が出されたが、われわれの間で準備その他で時機尚早としたが、「ではその次は日本で」、ということになりそうである。アルゼンチンには温泉がない、奥地に鉱泉らしいものが1～2カ所ある？ということがわかっただけであった。学会終了後リオデジャネイロを経てサンパウロにはいった。日本人街にいて、マーケットやほうぼうをあたり、ようやく Procos de Caldas 温泉が有名で、在留邦人も訪れていることを知った。むりをすれば日帰り可能という。はじめは1泊する予定であったが、南米の航空日程がしばしば狂うという危険性のため、日帰りにするよりしかたがなかった。

III Procos De Caldas 温泉 (ブラジル)

12月15日の早朝起床してバス停留所へいったが予定より1時間おくれて発車、80～90 km のスピードで舗装道路をとばすので、これならつまらない田舎の温泉場ではなかろうと推定した(全部が舗装ではないが)。時々休憩して5時間午後3、840呎の高原温泉場に到着した。案に相違して立派な温泉場であることをみて、訪ねた甲斐のあったことを喜んだわけである。ところが帰りのバスの時間の関係で2時間の視察がやっとならぬことに気がついた。早速案内をこうしたが、英語は通ぜず、ポルトガル語にはまいてしまった。ようやく少し英語のわかる男をつかまえて、私の目的を話したところ、日本人がホテルを経営しているからそこで尋ねればよからうといわれた。“砂漠でオアシス”というわけでタクシーをとばせて、丸山茂という一世の日本人の経営するホテル Ritz にいて事情を話した。突然の訪問ではあり、若干用足しをして後に案内してあげるといふことでほっとした。

以下丸山氏からうかがった情報を記す。「ここはブラジルでもっとも有名な温泉場で人口約5万、州政府の管理下にある。気候よく浴客は四季絶えない静かな温泉である。図1の第1級の温泉治療館(後述の Antonio Carlos 温泉治療館)は35年前までは内部の施設はドイツ的で世界一と豪語していたという。泉温44°Cでブラジルではもっとも温度の高い温泉、高原にあるため避暑地としても有名(私の行った12月15日午後3時で、気温28°C)、年間では1月が浴客がもっとも多い。医師の数は30～40人であるが、全部がいわゆる欧米式の泉医のみではないが、浴客は医師の診断書によって、しかるべき湯治を行なうようになっている。先述の第1級治療館と、図3にみる第2級の大温泉館 Balneario Dr. Mario Mourao (マリオ・ムラオ博士・温泉館と訳すか?)は、ともに各人が1浴槽の入浴式になっており、日本のような千人風呂式のものはない。開館時間がきまっており午前10時からと午後3時すぎになっている。入館料金として、第1級館は30円(ブラジル価で150クルゼイロ)、第2級館は20円であるが、内部での諸治療費は別に支払わねばならない。650人を収容する山上の州立温泉ホテル図4のほ

かに大小のホテル60もある」と。

以上のものであるが、バスターミナルも立派であり、美しいいろいろな花壇がその周辺をいろいろとっていた。バス駅より少し離れたところには音楽堂があり、丸山氏の車で案内して頂いたが、大ホテルもみられた。第2級温泉治療館の左手には飲泉場が設けられていた。

本温泉の利用法であるが、H会社のコピーには酸化促進、血液新生、肝臓の解毒機能亢進作用があり、療養と保養相半ばするとの記載があった。

前述のように入館時間がきまっているとはいえ、時間の余裕さえあれば内部をみる事ができたが、日帰りという時間に制約されて、それは果しえなかった。しかし私としてはブラジルにも欧米式の立派な温泉場があることを知って満足してサンパウロへ帰った。帰着した時にはすでに夜になっていた。丸山氏によれば、本温泉は今後大いに発展することが約束されているということである。なおカントリークラブ、テニスコート、ゴルフ場などもあるという。本学会の会員諸氏のなかでサンパウロへ行かれる機会があればぜひご一見をおすすめしたい。サンパウロより5時間半のバス行程とはいえ、快適な高原道路であり、熱帯、亜熱帯植物のほかに、ポルトガル風の白い壁、赤屋根の家が点在する風情も旅情を慰めるに充分といえよう。

次に視察当日頂きそこねた温泉療養案内を後日丸山氏より送って頂いた。全文はもっと詳しいものであるが、要点を次に記してみる。

Procos De Caldas 温泉の療養指導案内

1 硫黄泉浴

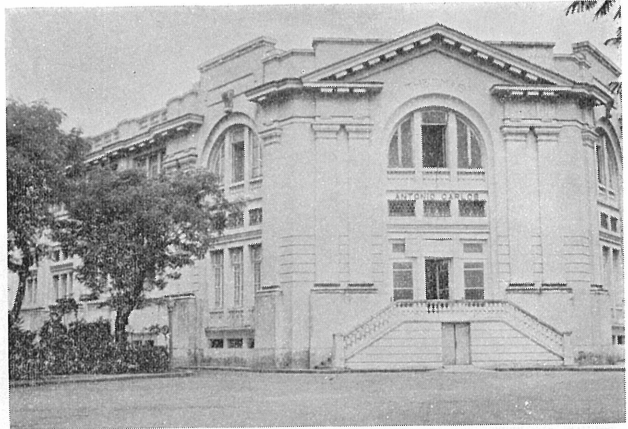
場所：Antonio Carlos 泉，パレスホテル，Quisiana および Macacos 泉

作用

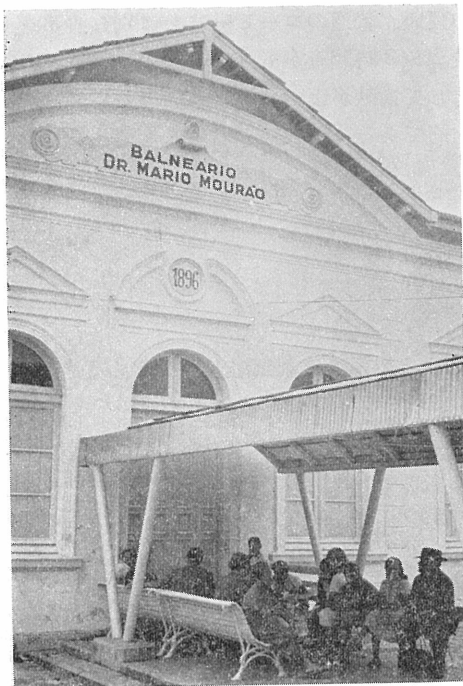
鎮静，充血除去，消炎，防腐，創傷治癒，解毒，抗アレルギー，祛たん作用あり。すなわち痛みを和げ，炎症をおさえ，消毒，解毒，脱感作的にはたらく，傷を治す。

適応症

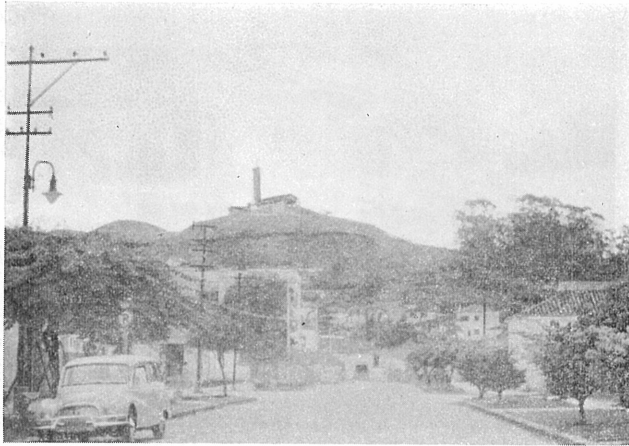
慢性のリウマチ疾患（慢性関節リウマチ，変形性関節症，結合織炎）およびその後遺症，マヒ，神経炎，静脈炎，各種神経痛（肋間，腰部，坐骨），骨折，慢性皮膚病（湿疹，かゆみ，慢性じんましん，皮膚かじよう），アレルギー性疾患，栄



第2図



第3図



第4図 山上に見えるのが州立温泉ホテル

病, ライ病, 結核, 高血圧, 低血圧, 激しいインフルエンザ, 急性中毒, 食あたり, 嘔吐, 激症赤痢, 回復期, 全身衰弱.

温泉反応 (湯あたり?)

正常反応: 湯あがり後の軽い疲労, ひるまのねむけ. 5~10日におこり一見悪いようにみえるが, これらは良い状態に向う反応である.

異常反応: 湯あがり後長期に疲労を感じず (温泉性衰弱). 激しい全身症状 (良くない結果であることを示す). 強度のつかれ (頻回浴による).

入浴法

入浴は一般に朝食前またはうすいコーヒーの後が良い. 普通のコーヒーまたは別な食事をした場合は午前10時以後に入浴. 午後は4時頃. 食後2~3時間後がもっとも良い. 湯あがり後は冷えぬよう少なくとも30分間内に着服のこと. そして横臥がよい. 1日2回の入浴は体に良くないから注意すること. 硫黄泉入浴は非常に衛生的である, 硫黄性の石けんも利用できる, 洗髪も可能.

泉温および持続期間

医師の指示どおりに行なうこと.

2. Antonio Carlos 泉における各種設備

a. Sauna サウナ

Sauna を利用するため最近設備をよくした. 適応症と禁忌症は蒸気浴と同様である.

効果: 鎮静, 鎮痛, 消炎, 解毒, 血液循環を良好にして発汗を助ける.

適応症: 普通の温泉で治療しがたい病気はすべてこの Sauna による. 慢性リウマチ, 神経痛, 腰痛症, 静脈炎, 血行不全, 神経マヒ, 肥満症, 冷え症, きず, 脱臼, 骨折.

使用法: 全身浴, 部分浴, 坐浴 (医師の処方による)

b. 灌注 (ツッシュ) Ducha de chicote

作用: 全身の刺激療法となり, 消化, 筋肉, 神経. ホルモンの活動を盛んにする.

適応症: すべての神経疾患によい. リウマチ, 坐骨神経痛, 舞蹈病, 筋肉萎縮. 腸アトニー, 肥満症, インポテンツ, 更年期のイライラ感, 卵巣機能不全.

c. 灌注 (循環性?) Ducha circular

養病 (糖尿病, 痛風), 梅毒の補助療法, 薬物中毒 (砒素, 硫黄, ペニシリン), 慢性気管支炎 (単純性, 喘息性, 煤煙によるものなど), 内臓の慢性病.

禁忌症

すべての急性, 熱性, 伝染性炎症, 急性リウマチ, 急性皮膚炎, 静脈炎, 急性気管支炎, 急性の肝臓病, 腎臓, 腸, 子宮, 卵巣, 膀胱, 前立腺疾患, 非代償性心疾患, 動脈瘤, 重い動脈硬化症, 7カ月以上の妊娠, 一般的の出血

作用：一般の鎮痛，鎮痙，神経衰弱，舞蹈病，しんせん，パーキンソニスムス，顔面チック，甲状腺機能亢進症，脳性および脊髄性マヒ，けいれん性腸疾患，大腸，子宮，卵巣痛。

d. 鼻，咽頭による吸入療法

適応症：慢性咽喉頭炎，副鼻腔炎

e. 機械療法（医学的体操）

作用：筋，関節を弛緩させる，血流を改善するとともに食欲の増進，神経，呼吸，循環系，ホルモン活動を盛んにする。

f. 手によるマッサージ

作用：循環器，神経，筋肉に効果あり，肥満の予防となる。

適応症：リウマチ，神経マヒ，呼吸不全，消化不良，肥満症，内分泌失調症

g. 腸洗滌

作用：解毒，消炎，腸の蠕動調節。

適応症：慢性腸炎，慢性虫垂炎，胆石，尿路結石など。

h. 炭酸ガス浴

作用：心臓，神経のはたらきを改善させる。鎮静，血管拡張，利尿その他。

適応症：高血圧，血管閉塞症，神経衰弱。

i. 膣灌注 Ducha vaginal

作用：消炎，充血除去，消毒，創傷治癒。

適応症：慢性炎症，外陰部湿疹，かゆみ。

禁忌症：妊娠，出血。

j. 顔面の手入れ

作用：充血除去，消毒，創傷治癒。熱い湯によって皮膚を美しく，毛孔の拡張をおこす。冷水は反対に毛孔をひきしめ，皮膚を和らげる。

3. 飲 泉

a. Pedro Botelho 泉

本泉と Mariquinhas 泉は飲料水として有名である。

性状：アルカリ性硫黄泉（温）

作用：制酸，利胆，腸弛緩的にはたらき，鎮痛，消毒，脱感作作用あり。

適応症：過酸性胃炎，十二指腸炎，胃，十二指腸かいよう，胆のう症，便秘，中毒症。

禁忌症：閉塞性黄疸，腎石など。

b. Sinhayinha 泉

性状：アルカリ性硫黄泉（冷）

作用：胃酸度をたかめ，利胆，鎮痙，止痢，過血糖抑制。

適応症：低酸性胃炎，肝障害，糖尿病，けいれん性腸炎。

c. Macacos 泉

すべて a) の Pedro Botelho と同じ。

なお多くの記載があるが省略する。本療養案内をよむと，微に入り細をうがった感がある。例えば7カ月以上の妊娠には禁忌とか，1日に2回の入浴は注意せよ，その他数多くあるが，ここでも欧米のように医師の処方に従うこととなっていることから考えて，本邦でも近い将来

設定せられなければならない制度である。やや合点のゆかないのは、温泉が低血圧に禁忌となっているが、これはメマイが起るだろうとの配慮の故か？なお冷い温泉で下痢に良いというのがあったが、あまり冷たくないのか、または硫黄泉といってもその含量の多くないためであろうか。成分、温度の記載がこの案内表にないので不明。適応症にある静脈炎の記載に諸賢も奇異に感ぜられると思うが、アルゼンチンできいたところでも、静脈炎が多いという。南米の特異性らしく気候のためか労働のためかわからない。

次に Procos de Caldas 温泉場で Annibal Theotônio Bastica 博士（先述したブラジルの1つの州である Minas Gerais 州分析研究所長）の指導のもとに行なわれた温泉分析の主要点をひろってみる。飲泉用の a) Pedro Botelho 泉と c) の Macacos 泉であるが、両者ほとんど成分が等しい。ポルトガル語なので不明の点がほとんどであり（訳者も手を焼かれたようである）、性状は無色透明、硫黄臭があり、味はアルカリ性である。比重は気温 20°C で 1.000645、泉温 45°C で pH は 9.28、総硫黄 2.72mg/l であるから強アルカリ性硫黄泉といえよう。

著者はこの温泉でなく、第2級大衆温泉である “Balneario Dr. Mario Mourao 泉の南側の飲泉場で、飲用してみたが、微硫黄臭で飲用し易い温泉であり、これならば上記にあげられたようにながりの適応症を有する温泉と推定した。

IV その他のブラジルの温、鉱泉

その他の温鉱泉 8カ所については詳細を知るよしもない。ただ医療的に利用されると記されている4カ所を別表に示した。

その他ブラジルの温泉、鉱泉

Araxia 硫黄泉
Minas Gerais 州、海拔 3000呎
リウマチ、神経マヒ、糖尿病などに効く
Guarapart 放射能泉？
大西洋岸、Vitória 市近傍
リウマチ、関節炎に効く
Caxambo 鉱泉 18°C
Min. Ge 州、飲用に市販
Lindoya 鉱泉 21°C
サンパウロに近い、糖尿病に効く

V おわりに

中南米は広大な大陸であり、航空便の少ない土地だけに大きな国際学会の後の限られた日数で、各温泉を回することは困難であろう。われわれ同行の十数名のなかでも、最初は温泉行きを予定されていた温泉医学者もおられたが、疲労その他の理由で中止されたようである。南米にも立派な温泉があることを確かめてきたのは多分私一人であろうと考え、ここに報告し、講演を終える。（終りに、本特別講演の機会を与えられた八田会長、ならびに評議員、会員のたがたに謝意を表す）。

文 献

- 1) 矢野良一：温泉科学，欧米の温泉について，8，29（1956）。
- 2) 矢野良一：福岡医学雑誌，欧米におけるリウマチの研究ならびに温泉療法，47，1685（1956）。
- 3) 藤巻時男：温泉科学，ブラジルの温鉱泉，14，90（1963）。